

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4013696号  
(P4013696)

(45) 発行日 平成19年11月28日(2007.11.28)

(24) 登録日 平成19年9月21日(2007.9.21)

(51) Int. Cl.

A 4 7 B 77/00 (2006.01)

F I

A 4 7 B 77/00

請求項の数 3 (全 6 頁)

|           |                              |           |                     |
|-----------|------------------------------|-----------|---------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2002-228893 (P2002-228893) | (73) 特許権者 | 000005832           |
| (22) 出願日  | 平成14年8月6日(2002.8.6)          |           | 松下電工株式会社            |
| (65) 公開番号 | 特開2004-65555 (P2004-65555A)  |           | 大阪府門真市大字門真1048番地    |
| (43) 公開日  | 平成16年3月4日(2004.3.4)          | (74) 代理人  | 100087767           |
| 審査請求日     | 平成17年7月28日(2005.7.28)        |           | 弁理士 西川 恵清           |
|           |                              | (74) 代理人  | 100085604           |
|           |                              |           | 弁理士 森 厚夫            |
|           |                              | (72) 発明者  | 石塚 昭彦               |
|           |                              |           | 大阪府門真市大字門真1006番地 松下 |
|           |                              |           | 電器産業株式会社内           |
|           |                              | (72) 発明者  | 谷 聡                 |
|           |                              |           | 大阪府門真市大字門真1006番地 松下 |
|           |                              |           | 電器産業株式会社内           |
|           |                              | 審査官       | 神 悦彦                |
|           |                              |           | 最終頁に続く              |

(54) 【発明の名称】 キッチン用キャビネット

(57) 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

側板の後端部に背板と下棧を備え、前記下棧には1あるいは複数の溝を有する接合棧を固定し、前記接合棧の溝に前記背板の下端部を挿入固定し、側板の下部には、前記側板より奥行きの短い底板を備え、前記背板と前記底板との間に全幅にわたり点検開口を形成し、点検開口を閉塞した点検蓋の下面に前後一对の係止片を形成し、前後一对の係止片を前記接合棧と前記底板の後端部に係止させた構成のキッチン用キャビネット。

## 【請求項2】

点検開口の両側部を複数の点検蓋で閉塞し中央部に排水開口を形成し、前記排水開口は中央部に開口穴を有する排水プレートで閉塞し、前記排水プレートは着脱自在でかつ左右に移動可能な請求項1記載のキッチン用キャビネット。

## 【請求項3】

底板後端部に起立する補助背板を設け、前記補助背板の上面と略等しい高さに接合棧を設けた請求項1又は2記載のキッチン用キャビネット。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

## 【発明の属する技術分野】

本発明はシステムキッチン等の給排水接続を要するキャビネットに関するものである。

## 【0002】

## 【従来の技術】

10

20

従来、この種のキッチン用キャビネットとしては、例えば、図5に示すように底板1に背板2、背板後部3が固定され、底板1の後方部に幅方向略全長に開口部4を設け、開口部4を塞ぐ切断加工容易な材料で取り外し自在とする蓋部5を取付ビス6または両面テープで固定する構成になっていた。

#### 【0003】

##### 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記従来の構成では、蓋部5を取付ビス6で固定しているので外観が良くなく、また両面テープで固定している場合は取り外しに不便という課題を有していた。

#### 【0004】

本発明は、前記従来の課題を解決するもので、キッチンの給配水管の接続作業をおこなったり点検作業をおこなうための点検開口および点検開口を隠蔽するための蓋を低コストで外観性能の良いものを提供することを目的とする。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

前記従来の課題を解決するために、本発明のキッチン用キャビネットは、側板の後端部に背板と下枠を備え、前記下枠には1あるいは複数の溝を有する接合枠を固定し、前記接合枠の溝に前記背板の下端部を挿入固定し、側板の下部には、前記側板より奥行きの短い底板を備え、前記背板と前記底板との間に全幅にわたり点検開口を形成し、この点検開口を閉塞した点検蓋の下面に前後一対の係止片を形成し、前後一対の係止片を前記接合枠と前記底板の後端部に係止させた構成としたものである。

#### 【0006】

これによって、下枠に固定された接合枠の溝に背板を挿入固定することにより、背板と下枠は全幅に渡り確実に接合され、しかも同時に点検蓋後部の保持部も形成され、底板後端部との間に点検蓋を差し渡すことにより、点検開口全面を隠蔽することが可能となる。また、点検蓋が不用意に外れることを防ぎ得る。

#### 【0007】

##### 【発明の実施の形態】

請求項1に記載の発明は側板の後端部に背板と下枠を備え、前記下枠には1あるいは複数の溝を有する接合枠を固定し、前記接合枠の溝に前記背板の下端部を挿入固定し、側板の下部には、前記側板より奥行きの短い底板を備え、前記背板と前記底板との間に全幅にわたり点検開口を形成し、点検開口を閉塞した点検蓋の下面に前後一対の係止片を形成し、前後一対の係止片を前記接合枠と前記底板の後端部に係止させた構成とすることにより、下枠に固定された接合枠の溝に背板を挿入固定することができるので、背板と下枠は全幅に渡り確実に接合され、しかも同時に点検蓋後部の保持部も形成され、底板後端部との間に点検蓋を差し渡すことができ、点検開口前面を隠蔽することになり、接合枠を介して下枠と背板を強固かつ確実に接合できるとともに、点検蓋の保持部を見栄えよく低コストで形成することができる。また、点検蓋が不用意に外れることを防ぎ得る。

#### 【0008】

請求項2に記載の発明は点検開口の両側部を複数の点検蓋で閉塞し中央部に排水開口を形成し、前記排水開口は中央部に開口穴を有する排水プレートで閉塞し、前記排水プレートは着脱自在でかつ左右に移動可能な構成とすることにより、点検開口の一部を点検蓋で閉塞し、残りの部分は排水プレートで閉塞し、排水プレートは配水管の位置に合わせて左右に移動可能となり配水管の位置に合わせて、排水プレートを調整できるため、設置工事が簡単にすることができる。

#### 【0009】

請求項3に記載の発明は底板後端部に起立する補助背板を設け、前記補助背板の上面と略等しい高さに接合枠を設けた構成とすることにより、補助背板上面と接合枠に点検蓋を差し渡して閉塞することにより、点検蓋下部に高さの高い空間が形成されることとなり、給排水管を高い位置で取り出す場合に、被助背板と点検蓋で構成される空間で配管接続が容易にでき、しかも隠蔽できるため見栄えをよくすることができる。

10

20

30

40

50

【0010】

【実施例】

以下本発明の実施例について、図面を参照しながら説明する。

(実施例1)

図1は本発明の実施例1のキッチン用キャビネットを示す斜視図で、図2は要部を示す断面図である。

【0011】

2枚の側板7の後端部間には背板8と下棧9が配設され、下棧9の下面にビス等で固定された接合棧10には背板溝10aが形成されており、背板8の下端部が全幅にわたり挿入され、強固に固定されている。

10

【0012】

側板7の下部間には、側板7の奥行より短い底板11が配設され、背板8と底板11の後端部との間に全幅にわたり点検開口12が開口されている。

【0013】

点検開口12は樹脂などの切断加工が容易な材料で形成された着脱自在な点検蓋13を、底板11の後端部と接合棧10の係止部10b間に差し渡して閉塞されている。

【0014】

点検蓋13の下面には前後一对の係止片13a形成されており、底板11の後端部と接合棧10の係止部10bに係止して点検蓋13が不用意に外れることを防ぐ構成である。

【0015】

次に、動作、作用について説明すると、上記構成の点検蓋13は着脱自在で、切断加工が容易な材料で形成されているため、キッチンの給排水管の接続工事を行う場合は、点検蓋13を取り外して工事を容易に行うことができ、また、給排水管の取り出し用の開口穴が必要な場合でも、容易に開口穴を開けることができる。また、設置工事後の点検やメンテナンスも点検蓋13を開けて容易に行うことができる。

20

(実施例2)

図3は本発明の実施例2のキッチン用キャビネットを示す斜視図である。

【0016】

図において、点検蓋13は複数に分割されており、点検蓋13の幅寸法の合計は点検開口12の幅より短く、全ての点検蓋13を設置した状態で一部に排水開口14が開口する。排水開口14は中央部に開口穴を有する排水プレート15で閉塞し、排水プレート15は着脱自在でかつ左右に移動可能な構成である。

30

【0017】

なお図1に示した実施例1と同じ構成要素には同一の符号を付与し説明を省略する。

【0018】

排水プレート15は配水管の位置に合わせて左右に移動可能となり配水管の位置に合わせて、排水プレート15を調整できるため、設置工事が簡単にすることができる。

(実施例3)

図4は本発明の実施例3のキッチン用キャビネットを示す要部断面図である。

【0019】

図4において、底板11の後端部に補助背板16を設け、補助背板16の上面と略等しい高さに接合棧10を配設し、補助背板16上面と接合棧10に点検蓋13を差し渡して閉塞した構成である。

40

【0020】

なお図2に示した実施例1と同じ構成要素には同一の符号を付与し説明を省略する。

【0021】

点検蓋13下部に高さの高い空間が形成されることとなり、給排水管を高い位置で取り出す場合に、補助背板16と点検蓋13で構成される空間で配管接続が容易にでき、しかも隠蔽できるため見栄えをよくすることができる。

【0022】

50

## 【発明の効果】

以上のように、請求項 1 から 3 のいずれか一項記載の発明によれば、接合棧を介して下棧と背板を接合することにより、強固かつ確実に接合できるとともに点検蓋の保持部を見栄えよく低コストで形成することができる。

## 【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施例 1 におけるキッチン用キャビネットの斜視図

【図 2】 本発明の実施例 1 におけるキッチン用キャビネットの要部断面図

【図 3】 本発明の実施例 2 におけるキッチン用キャビネットの斜視図

【図 4】 本発明の実施例 3 におけるキッチン用キャビネットの要部断面図

【図 5】 従来のキッチン用キャビネットの要部断面図

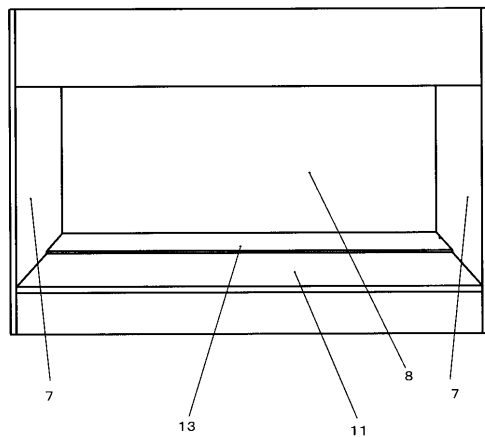
10

## 【符号の説明】

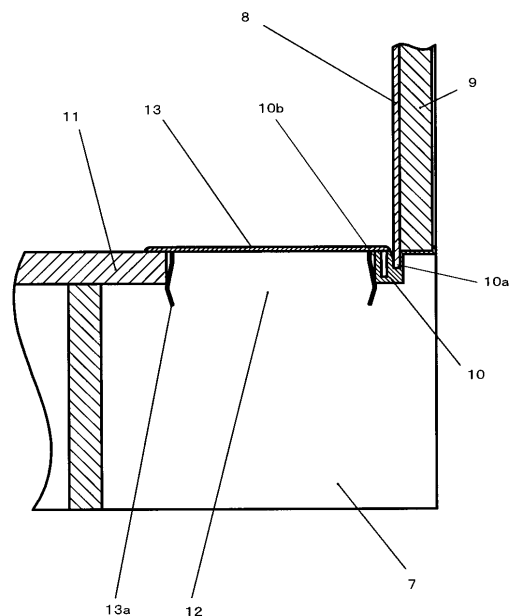
- 7 側板
- 8 背板
- 9 下棧
- 10 接合棧開口部
- 11 底板
- 12 点検開口
- 13 点検蓋
- 14 排水開口
- 15 排水プレート
- 16 補助背板

20

【図 1】

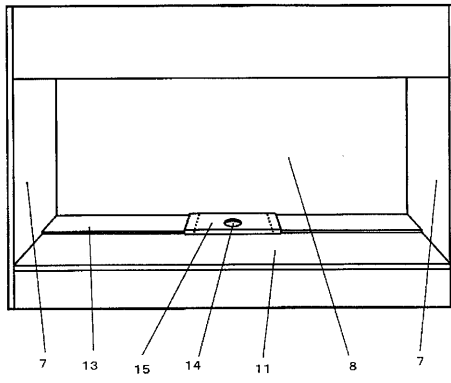


【図 2】

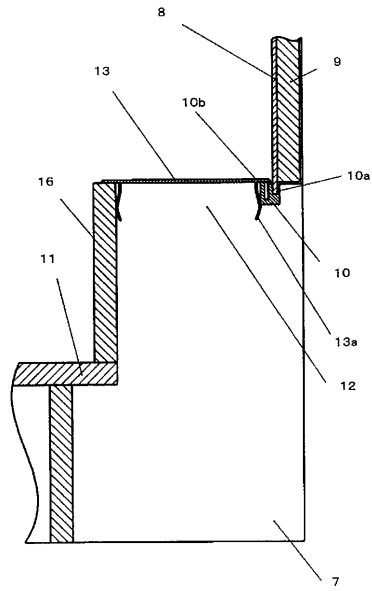


- 7 側板
- 8 背板
- 9 下棧
- 10 接合棧
- 11 底板
- 12 点検開口
- 13 点検蓋

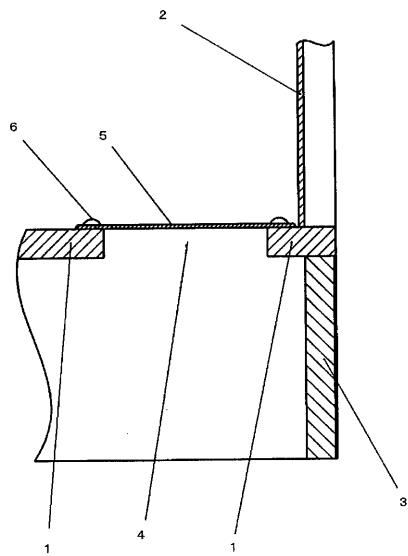
【図 3】



【図 4】



【図 5】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2001-231648 (JP, A)  
特開平11-070025 (JP, A)  
特開2001-073424 (JP, A)  
特開平08-098729 (JP, A)  
特開平09-262143 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)  
A47B 77/00